

チャレンジ！！オープンガバナンス 2018 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注1)	No.	タイトル	自治体名
		「あるもの磨き」で裾野を磨く！ 裾野を磨いて、困りごとを解決！	裾野市
アイデア名 (注2) (公開)	郷土への愛着は情報から！ PDF・Wikipedia！ みんなでつくるオープンデータ		

(注1) 地域課題タイトルは、COG2018 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

1. 応募者情報

チーム名 (公開)	Code for SUSONO(仮称)		
チーム属性 (公開)	<input checked="" type="radio"/> 1. 市民によるチーム <input type="radio"/> 2. 学生によるチーム <input type="radio"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム		
メンバー数 (公開)	14 名		
代表者情報			森直之
メンバー情報	氏名 (公開)		田口建一、秋山真登、松本雄二、小田圭介、増田祐二、勝又康雄、今野功一、宮坂里司、中原義人、勝又優斗、川上佳紀、松村マリア、横山雅樹

(注意書き) ※ 必ず応募前にご一読ください。

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2018_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2018 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin_padit_cog2018@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示-非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)

4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイザーの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。> **フリー素材を使用「いらすとや」「ぱたそ」。写真はメンバー撮影のもののみ。**
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。> **肖像権の侵害にあたる映り込みはありません。**

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

2. アイデアの説明（公開）

（1）アイデアの内容、（2）アイデアの理由、（3）実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

（1）アイデアの内容（公開）

アイデアは、課題解決のために、何をやる社会的なサービス（活動）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したり、活用したくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなワクワク感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題>

本チームで解決したい課題は、「郷土への愛着をどうやって高め、地元にしびっくプライドを根付かせていくか」。前年度に裾野市から提出されている課題リストの中から、話しあってテーマを選定した。この課題をクリアするため、活動の方向性として「情報発信」と、今年の裾野市の課題テーマである「あるもの磨き」を掛け合わせて取り上げた。今回、郷土の情報発信をするための資料を収集しようとしたが、過去の広報紙が図書館に無い（誰でも見られるという状態ではない）ということがわかった。また、市役所に保管されている広報紙も風化・劣化が進んでいて、将来にわたり多くの人が活用する資料として心許ないと感じた。郷土の歴史を知るためのベースとなる広報紙をいつでも誰でも見られるようにした上で、広報紙情報の活用方法を検討する。

<解決アイデアの内容>

【1】以上の課題から仮説を立てる

1. 既に刊行されている広報紙と、そこに書かれている情報はまさに「あるもの」。これを磨いてみよう！
2. デジタルデータ化することで、事実上の永久保存になる
3. OCR 処理することで、読み上げや単語検索ができ、より多くの人が情報にアクセスできる
4. デジタルデータ化した広報紙を公開することで、いつでも誰でも見られるようになる
5. みんなで作業することで昔話に花が咲いたり、新たな発見をしたりすることができる（郷土への愛着 UP）



【2】仮説から何ができるか（打ち手）を考える

1. デジタルデータ化した広報紙を市の WEB サイトでオープンデータとして公開できる
2. デジタルデータ化した広報紙は Wikipedia の出典として活用できる（Wikipedia Town を開催）
3. これらの作業をワークショップ方式でワイワイ取り組む

つまり、大勢で昔～今の広報紙を PDF 化してしまう作業を、楽しい雰囲気で行い、そのデータを活用する！

楽しむことと人のつながりをつくることをメインの取り組みとしたいと考えている。

デジタルデータ化・オープンデータ化することで、市民を含めすべての人が活用できる状態になるため、資料価値と参照可能な出典資料として活用できる。オープンデータ化した後の継続的な利活用方法についても検討する。



※写真は広報紙を確認したり、スキャンする作業のときのものです、アイデアを実現する作業のイメージ図です。

(2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの資料や関連の計画、既存の施策などの定性データのことを総称します。データは出所を明らかにしてください。

引地氏と青木氏による論文「地域に対する愛着形成の心理過程の検討」（※1）では、地域への愛着形成の心理過程においては、“地域の肯定的な認知で肯定的な印象が形成”され、それは“居住年数よりも影響が大きい”とされている。つまり長く住んでいることよりも、地域について肯定的なインプットが成される事が重要、と理解できる。

裾野市で郷土への愛着が育っていない理由の1つとして、「裾野市に住んでいる人が裾野市に何があるかをあまり知らない」、つまり、肯定的なインプット、印象が少ないからではないかと考えた。「自分のまちを知ること」が郷土への愛着を育む一歩であるとするならば、「自分のまちを知るための情報が見当たらない」＝「肯定的なインプットの機会が与えられていない」ということであり、つまりこれが問題の根底にある。

まず、例として「裾野市中央公園」のなりたちを調べようとしたときに、どうやって情報を調べるのかを考えてみた。多くの人は検索サイトで「裾野市 中央公園」などのキーワードで検索する人がほとんどではないだろうか。このキーワードで検索された結果は、裾野市公式 WEB サイト以外は、公園を訪れた人が書いた個人ブログ等の情報が大半を占めており、郷土を知るための情報が網羅されているとは限らない。裾野市の名所・景勝地・歴史的資産を調べようとしても、同様の結果である。

次に、WEB 検索をする際に参照される WEB サイトがどこなのかを調べてみた。上位 WEB サイトランキングの“Similar Web”（※2）によると、日本においては検索サイトや SNS が上位を占める中、12 位にランクしている Wikipedia（オンライン参加型百科事典）がナレッジベースとしては最上位となっている。

2018 年 5 月、Code for ふじのくに（代表：市川博之氏）（※3）主催の Wikipedia Town において「裾野市立鈴木図書館」と「鈴木忠治郎」について、記事作成に取り組んだ結果、鈴木図書館の成り立ちなどがまとめられ、現在 Google で「裾野市 鈴木図書館」と検索をすると、市の WEB サイトに次いで Wikipedia の記事（※4）が表示され誰もが参照可能な情報として公開されている。

以上の結果から、あらゆる項目を Wikipedia に掲載してしまえばいいと考えてしまうところであるが、Wikipedia には記事として成立させるための重要なルール、“出典の明記”がある。

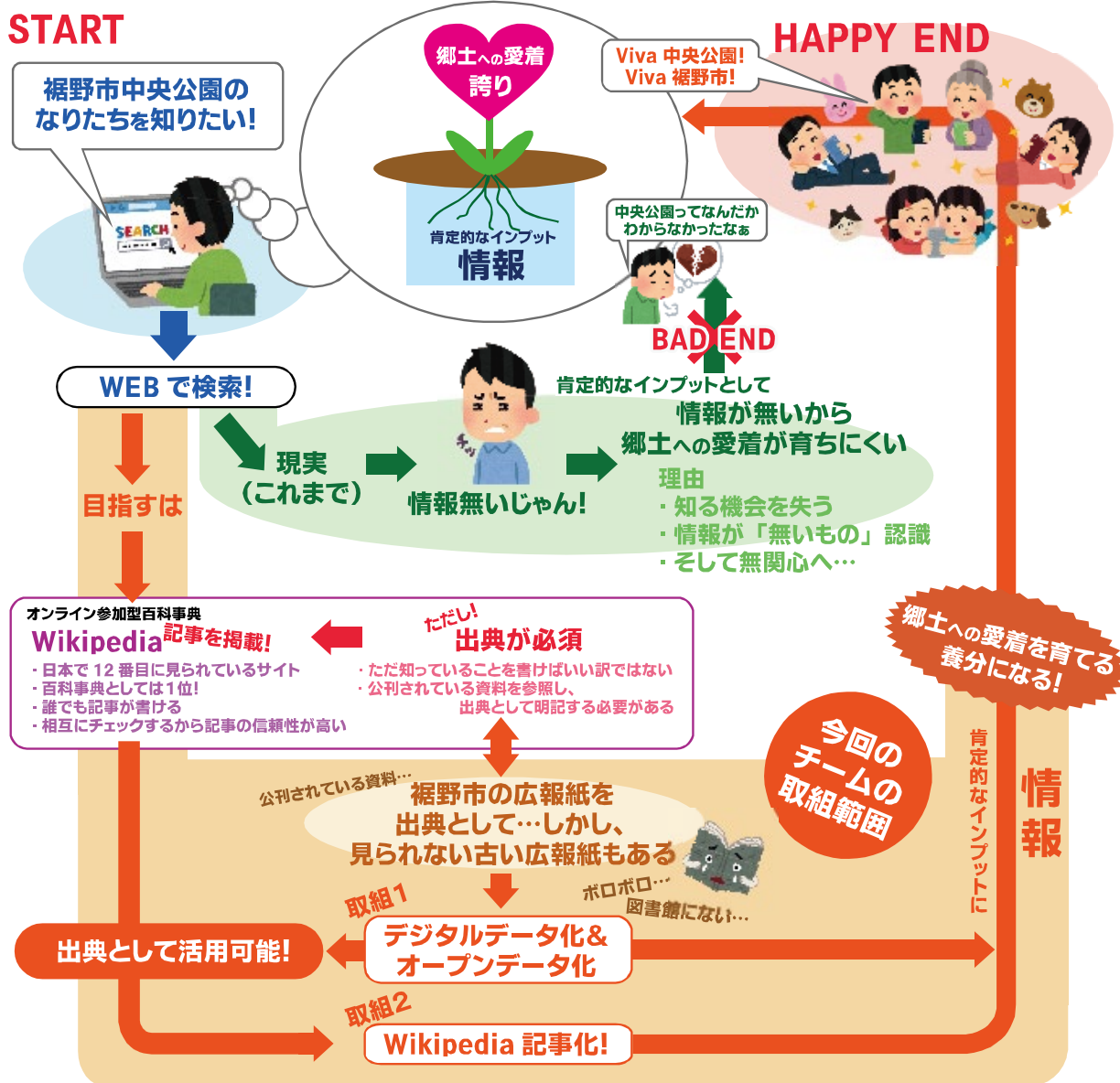
出典としては“信頼できる公刊された情報源を使用するべき”とされており、記事の信頼性・検証可能性を担保するために、出典先を誰でも参照し確認できる必要がある。

Wikipedia Town を実施する際に、古い広報紙を参照しようとしたところ、ある年代以前の広報紙は閉架図書となっているか、蔵書がないために、確認することができず、出典として扱いにくい状態にあった。裾野市の戦略広報課に確認したところ、市役所には古い広報紙が置いてあるとのことだったが、ボロボロの状態の物もあり、参照し活用する資料としては心許ない状態だった。また、近年の DTP により編集された広報紙とは異なり、活版印刷等で作られた広報紙は現存する物限りであり、劣化により情報が失われていく可能性が高い。これらをデジタルデータ化することで、可用性を確保できると考えた。

この紙の状態の広報紙をデータの種としてデジタルデータ化し、そのデータをオープンデータとして公開、これを基にさ

らに Wikipedia 等へナレッジを蓄積させていく取り組みを行うことで、多くの市民に郷土情報にアクセスできる環境を提供し、結果として、郷土への愛着増進、ひいてはシビックプライドの醸成を狙う。

取り組みのイメージ図



本文補足

(※ 1) 地域に対する愛着形成の心理過程の検討, 引地博之・青木俊明 :

<https://www.jsce.or.jp/library/open/proc/maglist2/00897/2005/pdf/B41D.pdf>

(※ 2) “Similar Web” : <https://www.similar-web.jp/>

(※ 3) Code for ふじのくに : <https://www.code4numazu.org/>

(※ 4) Wikipedia 鈴木図書館 : <https://ja.wikipedia.org/wiki/鈴木図書館>

データの出所 : 裾野市 企画部 戦略広報課

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、アイデア実現までの大まかな流れについて、2 ページ以内でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

実現する主体

市役所と本チームで実現可能である。市役所のサポートとして、広報紙を PDF 化する作業を許容して、広報紙を貸し出していただくかが課題となるが、市役所としても古い広報紙をどのように扱えるかを思案していたということで、思いが合致した。また、本活動に賛同した市役所職員も一緒にメンバーとなり、取り組んだ。

なお、同地域で活動する「Code for ふじのくに」から、Wikipedia Town の取り組みの基礎知識提供や、Wikipedia 記事のブラッシュアップなどのサポートを受け、連携して取り組んだ。

資源の規模

- ・ヒト：有志メンバー
- ・モノ：広報紙、市勢要覧などの市既刊刊行物（市の協力で提供）
- ・カネ：会場費＞ゼロ（市イベントとして実施の位置づけで無料）

時間軸におけるプロセス（プロセスの詳細は 下記作業プロセス）

第一回：11 月 13 日 > 広報紙のデジタルデータ化（広報紙のスキャンまで）

第二回：11 月 28 日 > 広報紙のデジタルデータ化（スキャンミスの確認まで）、Wikipedia のネタ探し

第三回：12 月 16 日 > Wikipedia Town、まとめ

作業プロセス

■ 広報紙のデジタルデータ化

1. 広報紙の借り受け
2. 広報紙の分解（ドキュメントスキャナでスキャンできるように裁断する）
3. 広報紙のスキャン
4. OCR 処理
5. スキャンミスの確認
6. PDF として保存
7. オープンデータ化（12 月 20 日現在、市役所と調整中）

広報紙デジタルデータ化の成果

昭和 31 年創刊号～平成 29 年度末までの、ほぼすべての広報紙を PDF 化。広報紙をスキャンした物に関しては、OCR 処理により透明テキストの埋め込みまで完了した。（※ 5）

これにより、平成 29 年度末までのほぼすべての広報紙のデジタルデータ化が完了した。今後、オープンデータとして公開する場所を市が検討し、広くデータ開放していく。

※ 5 市役所が所有していない号を除く、すべての号を PDF 化。また、14 年度以降は DTP による PDF 化が完了している。



■ Wikipedia Town

1. 古い広報紙をみんなで見る
2. 記事になりそうなトピックスを探す
3. データ化した広報紙から文字検索する
4. Wikipedia の記事にする



Wikipedia Town での成果

メンバーの子ども（中学生）から、「この前、裾野市のことを調べようとしてインターネットを検索したけど、情報が全然無かった」という指摘があった。インターネット上に情報がないということは、現代の子どもたちの調べ物学習においては、機会損失になっている。このことから、Wikipedia に情報を掲載していくことが価値のあることであると確信した。

<12月16日の作業で作成した記事>

・佐野原神社

神社のWEBサイトや裾野市史をリファレンスしつつ、今回PDF化した広報紙から文字列検索をして、歴史的情報等を出典に作成。また、現地でメンバーが写真を撮影し持ち帰り、敷地内の松尾芭蕉の歌碑の詳細を調べ記事化

・裾野市中央公園

中央公園の整備に取りかかった昭和48年ごろからの広報紙の内容を確認することを中心に詳細を調べた。複数年にわたる整備事業の記事も、文字列検索によって効率的に情報収集が進んだ。



新技術の活用

代表が研究開発に関わっている音声認識システム（UDトーク（※6）、まあちゃん（※7））を使用し、現地調査の読み上げ記録や、歴史の語り部の文字起こしを行った。お年寄りや子どもなどのキーボード入力が苦手な参加者が入力作業をする際も効率的に活用した。

今後の展望

- ・QRコードなどを現地に掲示するなど、「市民、リアル空間、Wikipedia記事」を繋いで、情報を活用していく。
- ・編集に関わる人を増やしながら、広報紙などにある情報を元にWikipediaへの郷土関連記事拡充をすすめる。
- ・Wikipedia記事化した観光地・景勝地等をOpen Street MapのuMap等でオープンデータ化していく。
- ・市史を編纂した裾野市史（全9巻）や市勢要覧など既刊資料についても同様の取り組みを進める。

デジタルデータ化した情報をスマートスピーカーによる音声読み上げのデータとして活用するなど、市民生活の利便性向上・ユニバーサルデザイン化へ活用できないか検討する。

本文補足

（※6） UDトーク：<http://udtalk.jp/>

（※7） まあちゃん：<https://www.machanbazaar.com/>